



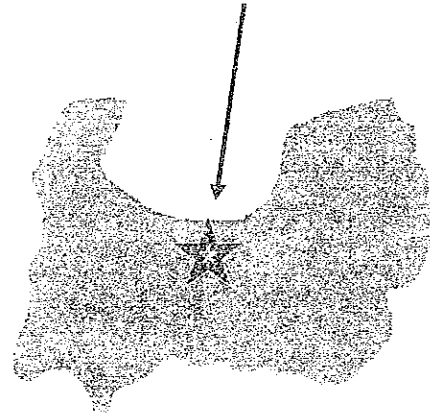
NPOが社会を変える

～富山型デイサービスの13年～

特定非営利活動法人 デイサービスこのゆびと一まれ
副代表 西村 和美

このゆびと一まれとは

富山市でH5年7月に産声をあげる



富山赤十字病院の
看護婦3人が始めた
デイケアハウス

赤ちゃんからお年よりまで
障害児も障害者もみんないらっしやい
このゆびと一まれ!

最初の利用者は障害児であった。

このゆびと一まれの理念

「だれもが、地域で、ともに暮らす」



豊かな人間関係の中で人は育ち、喜びも大きい。
一人ひとりが輝く。

みんなが一つ屋根の下で過ごすことは

日本の文化である

お年よりは赤ちゃんの顔を見ただけで笑
顔がでる

「この子達といると気がはれる」

あたり前・普通の生活をしているだけである。



このゆびと一まれの日常

このゆびと一まれの

畳の上で大往生した3事例

本人 安らかな顔をしている

家族 「これでよかった」

お年より 「私もこんな死に方をしたいわ」

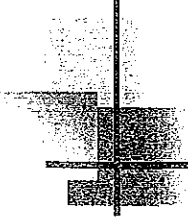
子ども 「〇〇ばあちゃん、のんのさんになっただね」

「お星さまになっただね」

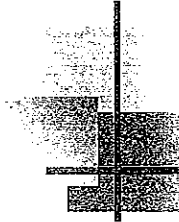
スタッフ 出会いやご縁に感謝し、死にゆく過程を大切にすることを学ぶ



- ・知的障害者の方が働いています
- ・利用者からスタッフへ



富山県民一人ひとりが、
日々感動とチャレンジ精
神をもち、死にがいのあ
る町づくりを進める



死にがいのある町作り

1)「この町で死ぬんだ」と腹を決める。

2)「私もこうやって、死にたい」

「畳の上で大往生されてよかった」
という死を多くする。

身近な死のありがたさを感じる町づくり